平成25年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年10月31日

上場会社名　株式会社ダスキン　　上場取引所　東 大
コード番号　4665　URL　http://www.duskin.co.jp/corp/index.html
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 山村　輝治
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役　(氏名) 鶴見　明久　TEL 06-6821-5071

四半期報告書提出予定日　平成24年11月13日　配当支払開始予定日　平成24年12月3日
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　有
四半期決算説明会開催の有無　：　有　機関投資家・アナリスト向け

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第2四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第2四半期	82,088	△3.9	4,751	12.1	5,746	7.8	2,967	3.5
24年3月期第2四半期	85,399	△2.7	4,238	△17.8	5,332	△11.7	2,866	9.2

(注)包括利益　25年3月期第2四半期　2,649百万円　(△8.7%)　24年3月期第2四半期　2,901百万円　(12.3%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第2四半期	46.17	―
24年3月期第2四半期	44.34	―

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第2四半期	196,094	149,667	75.9
24年3月期	197,316	149,604	75.4

(参考) 自己資本　25年3月期第2四半期　148,816百万円　24年3月期　148,781百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	―	0.00	―	40.00	40.00
25年3月期	―	20.00			
25年3月期(予想)			―	20.00	40.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成25年 3月期の連結業績予想(平成24年 4月 1日～平成25年 3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	170,000	△0.7	9,000	△8.6	10,800	△7.0	5,700	24.4	88.67

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ―社 (社名) 、 除外 ―社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、添付資料P. 5 「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期2Q	66,294,823 株	24年3月期	66,294,823 株
② 期末自己株式数	25年3月期2Q	2,009,649 株	24年3月期	2,009,339 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期2Q	64,285,365 株	24年3月期2Q	64,648,323 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きの対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続きを実施しています。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）連結経営成績に関する定性的情報 …… 2
（２）連結財政状態に関する定性的情報 …… 4
（３）連結業績予想に関する定性的情報 …… 4
２．サマリー情報（注記事項）に関する事項 …… 5
（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 …… 5
（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 …… 5
（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 …… 5
３．四半期連結財務諸表 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 8
四半期連結包括利益計算書
第２四半期連結累計期間 …… 9
（３）継続企業の前提に関する注記 …… 10
（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 …… 10
（５）セグメント情報等 …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）連結経営成績に関する定性的情報

当第２四半期連結累計期間（平成24年４月１日～平成24年９月30日、以下「当第２四半期」）の我が国経済は、東日本大震災の復興需要等を背景に、緩やかに持ち直す傾向にありました。しかしながら期の後半は、欧州債務危機再燃や中国の成長率の鈍化等で海外景気は減速し、国内においては電力料金の値上げや消費税増税法案が成立する等、先行きの不透明感が広がり、消費者の生活防衛意識や企業の経費節減意識は更に高まる状況が続きました。

このような環境の中、当社は「仕組みの改革」に主眼を置き、それをスピーディーに実行することを基本方針とする中期経営方針に沿った取り組みを開始しましたが、当第２四半期の業績につきましては、連結売上高は820億88百万円（前年同期比3.9%減）、連結営業利益は47億51百万円（前年同期比12.1%増）、連結経常利益は57億46百万円（前年同期比7.8%増）、連結四半期純利益は29億67百万円（前年同期比3.5%増）となりました。

＜セグメント毎の状況＞

①クリーンケアグループ

清掃関連用具のレンタルや清掃美化関連のサービスを手掛けるクリーン・ケア事業は、家庭市場においては、フロアモップ「ＬａＬａ」と置き型式掃除機「ダストクリーナー」を使った“新おそうじスタイル”の提案活動に引き続き注力しました。その結果、「ＬａＬａ」及び「ダストクリーナー」の売上は順調に増加しました。しかしながら、「ＬａＬａ」の販売初年度であった前期と比べ付属品等の売上が大幅に減少したことやハンディモップの売上が減少したこと等で、モップ商品全体の売上は前年同期を下回る結果となりました。役務提供サービスは、エアコンクリーニングサービスが前年同期並みに留まったものの、その他のサービスは順調に推移し、前年同期の売上を上回りました。以上の結果、家庭市場全体の売上高は前年同期を下回りました。（商品出荷ベース前年同期比4.1%減）

事業所市場においては、企業収益が回復傾向にある中、依然として経費節減意識は強く、引き続き厳しい状況が続いており、全体の売上高は前年同期を下回りました。しかしながら、清掃用具レンタルに、清掃サービスや害虫駆除、衛生管理サービス等を加えたオーダーメイドの総合提案を繰り返し行う地道な営業を展開した結果、マットを中心とするダストコントロール商品の売上減少幅は前年同期に比べ縮小しました。役務提供サービスにおいては、害虫駆除サービス、庭木の剪定サービス等の売上は順調に増加しましたが、施設管理サービス、エアコンクリーニングサービス等の売上が前年同期を下回りました。（商品出荷ベース前年同期比1.4%減）

クリーンケアグループのその他の事業につきましては、介護用品のレンタル及び販売が引き続き好調に推移したことに加え、イベント受注件数が増加したことで売上が回復したレントオール事業と、スキンケア関連化粧品の売上が好調に推移したヘルス＆ビューティ事業は前年同期の売上高を上回りました。ユニフォームサービス事業は、ユニフォームのリース契約、販売、クリーニング契約が堅実に推移し前年同期並みの売上高となりました。高齢者向け支援サービスのホームインステッド事業は、利用者数は増加したものの単価が低下したことで前年同期の売上高を下回りました。

以上の結果、クリーンケアグループ全体の売上高は541億94百万円（前年同期比5.4%減）、営業利益は73億17百万円（前年同期比4.2%増）となりました。

なお、支店で営業活動に従事する個人事業主の独立性をより高めるために、契約形態を変更したことによる当第２四半期の減収影響が約17億円あります。従いまして、その影響を除いた実質的な減収は約14億円（約2.5%）となります。この契約形態の変更による営業利益への影響はありません。

②フードグループ

ミスタードーナツ事業は、年初に更新したブランドスローガン「こころをまあるく」の浸透を図り、ブランド力再強化の各種施策に取り組みました。商品面においては、長年支持いただき発売40周年を迎えた定番主力商品「フレンチクルーラー」の材料・製法を見直す等、徹底して“おいしさ”にこだわると共に、季節催事に合わせた商品や人気タレント山口智充さん監修の「二度うまカレーパン」の発売、オリンピックイヤーにちなんだ英国発祥の「スコーン」の発売等、話題性豊かな商品を展開しました。プロモーション面におきましても、ＪＡＬ（日本航空株式会社）やＵＳＪ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）とのタイアップキャンペーン、かつて人気を博したスクラッチカードを使った「ラッキーカードキャンペーン」の復活、ミスドクラブにおけるグッズや商品と交換できる最低ポイントの引下げ等で楽しさや話題性を提供して、お客様の来店頻度アップを目指しました。また、公式Facebookの開設、Twitterを媒介したキャンペーン等、ソーシャルメディアの活用にも新たに取り組みました。出店については、５月には「東京ソラマチ」にミスタードーナツオリジナルキャラクターであるポン・デ・ライオンをテーマにした通称「ポン・デ・ライオンパーク」、９月にはＪＲ中央線西国分寺駅構内に新設された商業施設「nonowa西国分寺」内の中央線ホームにＪＲ西国分寺ショップをオープンする等、新しい取り組みにチャレンジしました。これらの積極的な施策でお客様数は回復しましたが単価が低下し、売上高は前年同期を下回りました。

フードグループのその他の事業につきましては、カフェデュモンド事業、かつアンドかつ事業、スティック・スイーツ・ファクトリー事業、事業モデルの見直しを進める海鮮丼チェーンを運営するどん事業は、不採算店のクローズを進めたことにより店舗数が減少し、売上高は前年同期を下回りました。

以上に当第２四半期より連結子会社となった蜂屋乳業株式会社の売上高４億36百万円を含めたフードグループ全体の売上高は227億69百万円（前年同期比0.9％減）、営業利益は４億78百万円（前年同期比33.2％減）となりました。

③その他

株式会社ダスキンヘルスケアで展開しております病院施設のマネジメントサービスは、新規契約件数は前年同期を上回りましたが、既存のお客様との契約が減額になったことを主因として、売上高は前年同期を下回りました。ダスキン共益株式会社で展開しておりますリース事業は、ミスタードーナツ店舗へのシステム機器入れ替えに伴って売上高は前年同期を上回りました。

海外事業につきましては、ダストコントロール事業は、前期３月に新たに進出した韓国において、家庭市場の開拓を重点に据えた各種施策を実行に移しました。また、その他の既存展開地域においては、市場拡大に向けた商品キャンペーン等の施策を実施したことに加え、前期に導入した役務提供サービスとの相乗効果が出始めたことで順調に推移しました。ミスタードーナツ事業は、８月で進出から１年を迎えたマレーシアの売上は概ね順調に増加し、タイも好調に推移しましたが、その他の地域の売上が減少し、ミスタードーナツ事業全体としては、ほぼ前年同期並みの売上高となりました。

以上の結果、その他の売上高は51億24百万円（前年同期比0.2％増）、営業利益は２億16百万円（前年同期比25.8％増）となりました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

（２）連結財政状態に関する定性的情報

当第２四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,960億94百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という）と比較して12億22百万円減少しております。その要因は、短期資金運用等の有価証券が40億87百万円減少したことに対し、ミスタードーナツ店舗へのシステム機器入れ替えに伴い有形固定資産その他が13億11百万円、現金及び預金が９億46百万円、商品及び製品が５億31百万円増加したこと等であります。

負債残高は464億26百万円となり、前期末と比較して12億85百万円減少しております。その要因は、未払金が10億70百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,496億67百万円となり、前期末と比較して62百万円増加しております。その要因は、四半期純利益29億67百万円と剰余金の配当25億71百万円との差引により利益剰余金が３億96百万円増加したことに対し、その他有価証券評価差額金が３億75百万円減少したこと等によるものであります。

（３）連結業績予想に関する定性的情報

平成25年３月期通期の業績予想につきまして、下表のとおり修正いたします。

上半期の実績、足元の状況等を鑑み、売上高は当初予想より50億円の下振れを予想しております。また、利益面につきましては、上半期は計画を上回ったものの、売上高の下振れに伴う利益の下振れを見込んでいる他、販売促進のための費用を新たに織り込み、通期では各段階利益で当初計画から下振れするものと予想しております。

①平成25年３月期　連結業績予想数値の修正（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	175,000	9,200	11,200	6,200	96円44銭
今回発表予想（B）	170,000	9,000	10,800	5,700	88円67銭
増減額（B－A）	△5,000	△200	△400	△500	―
増減率（%）	△2.9	△2.2	△3.6	△8.1	―
（ご参考）前期実績（平成24年３月期）	171,118	9,841	11,609	4,583	71円07銭

②平成25年３月期　個別業績予想数値の修正（平成24年４月１日～平成25年３月31日）

（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	151,000	6,700	9,400	5,300	82円44銭
今回発表予想（B）	147,000	6,000	8,800	5,000	77円78銭
増減額（B－A）	△4,000	△700	△600	△300	―
増減率（%）	△2.6	△10.4	△6.4	△5.7	―
（ご参考）前期実績（平成24年３月期）	150,019	6,928	10,313	4,428	68円66銭

２．サマリー情報（注記事項）に関する事項

（１）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

連結子会社の税金費用については、当第２四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、法人税等調整額は、法人税等に含めて表示しております。

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

３．四半期連結財務諸表
（１）四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成24年９月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	15,600	16,547
受取手形及び売掛金	10,891	10,733
リース投資資産	1,850	1,875
有価証券	18,153	14,065
商品及び製品	6,345	6,876
仕掛品	195	179
原材料及び貯蔵品	1,456	1,909
繰延税金資産	2,306	2,166
その他	2,675	2,781
貸倒引当金	△72	△35
流動資産合計	59,401	57,100
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	41,283	41,659
減価償却累計額	△23,361	△23,842
建物及び構築物（純額）	17,922	17,817
機械装置及び運搬具	21,742	23,255
減価償却累計額	△15,507	△16,859
機械装置及び運搬具（純額）	6,235	6,396
土地	23,818	24,092
建設仮勘定	268	76
その他	11,881	13,646
減価償却累計額	△8,317	△8,771
その他（純額）	3,563	4,875
有形固定資産合計	51,809	53,258
無形固定資産		
のれん	200	560
その他	8,926	8,363
無形固定資産合計	9,126	8,924
投資その他の資産		
投資有価証券	60,816	61,198
長期貸付金	45	120
繰延税金資産	6,998	6,720
差入保証金	7,876	7,641
その他	1,454	1,330
貸倒引当金	△212	△199
投資その他の資産合計	76,979	76,811
固定資産合計	137,915	138,993
資産合計	197,316	196,094

（単位：百万円）

	前連結会計年度 （平成24年３月31日）	当第２四半期連結会計期間 （平成24年９月30日）
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,616	6,991
1年内返済予定の長期借入金	94	99
未払法人税等	1,902	1,834
賞与引当金	3,422	3,098
ポイント引当金	449	433
資産除去債務	253	11
未払金	6,669	5,599
レンタル品預り保証金	10,634	10,468
その他	4,281	3,662
流動負債合計	34,323	32,200
固定負債		
長期借入金	151	139
退職給付引当金	11,965	12,643
債務保証損失引当金	60	42
資産除去債務	355	578
長期預り保証金	791	782
長期未払金	62	37
その他	2	2
固定負債合計	13,388	14,225
負債合計	47,711	46,426
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,337	11,337
利益剰余金	131,591	131,987
自己株式	△3,176	△3,177
株主資本合計	151,104	151,500
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1,793	△2,169
繰延ヘッジ損益	3	△5
為替換算調整勘定	△533	△509
その他の包括利益累計額合計	△2,323	△2,684
少数株主持分	823	850
純資産合計	149,604	149,667
負債純資産合計	197,316	196,094

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）
売上高	85,399	82,088
売上原価	47,410	45,926
売上総利益	37,989	36,162
販売費及び一般管理費	33,751	31,411
営業利益	4,238	4,751
営業外収益		
受取利息	446	470
受取配当金	145	142
設備賃貸料	63	58
受取手数料	145	146
負ののれん償却額	17	－
持分法による投資利益	41	－
営業権譲渡益	72	131
雑収入	319	253
営業外収益合計	1,250	1,202
営業外費用		
支払利息	3	2
為替差損	20	34
持分法による投資損失	－	31
支払補償費	15	46
賃貸借契約解約損	76	24
雑損失	39	66
営業外費用合計	156	206
経常利益	5,332	5,746
特別利益		
固定資産売却益	0	0
投資有価証券売却及び償還益	130	939
負ののれん発生益	0	－
貸倒引当金戻入額	24	－
その他	3	8
特別利益合計	158	948
特別損失		
固定資産売却損	4	3
固定資産廃棄損	53	67
減損損失	71	67
投資有価証券評価損	0	1,030
災害による損失	280	－
その他	18	9
特別損失合計	428	1,178
税金等調整前四半期純利益	5,061	5,517
法人税等	2,167	2,515
少数株主損益調整前四半期純利益	2,894	3,002
少数株主利益	28	34
四半期純利益	2,866	2,967

（四半期連結包括利益計算書）
（第２四半期連結累計期間）

（単位：百万円）

	前第２四半期連結累計期間 （自　平成23年４月１日 至　平成23年９月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自　平成24年４月１日 至　平成24年９月30日）
少数株主損益調整前四半期純利益	2,894	3,002
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△10	△375
繰延ヘッジ損益	△15	△9
為替換算調整勘定	30	19
持分法適用会社に対する持分相当額	2	12
その他の包括利益合計	6	△352
四半期包括利益	2,901	2,649
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,860	2,607
少数株主に係る四半期包括利益	40	42

（３）継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

（４）株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

（５）セグメント情報等

Ⅰ　前第２四半期連結累計期間（自　平成23年４月１日　至　平成23年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	57,317	22,970	5,111	85,399	―	85,399
セグメント間の内部売上高又は振替高	437	2	1,191	1,631	△1,631	―
計	57,755	22,973	6,302	87,031	△1,631	85,399
セグメント利益	7,019	716	172	7,908	△3,670	4,238

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△3,670百万円には、セグメント間取引消去△26百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,643百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

当第２四半期連結累計期間において、のれんの金額に重要な影響を及ぼす事象はありません。

なお、のれんの当第２四半期連結累計期間の償却額及び当第２四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーングループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第２四半期連結累計期間償却額	65	1	1	―	67
当第２四半期連結会計期間末残高（注）	267	9	11	―	289

（注）当第２四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高109百万円（クリーングループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高116百万円（クリーングループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。

Ⅱ　当第２四半期連結累計期間（自　平成24年４月１日　至　平成24年９月30日）

１．報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他（注１）	計	調整額（注２）	四半期連結損益計算書計上額（注３）
売上高						
外部顧客への売上高	54,194	22,769	5,124	82,088	―	82,088
セグメント間の内部売上高又は振替高	482	7	1,213	1,702	△1,702	―
計	54,677	22,776	6,337	83,791	△1,702	82,088
セグメント利益	7,317	478	216	8,012	△3,261	4,751

（注）１．「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、病院のマネジメントサービス、事務用機器及び車両のリース、保険代理業及び海外事業等を含んでおります。

２．セグメント利益の調整額△3,261百万円には、セグメント間取引消去△８百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,253百万円が含まれております。

３．セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

４．第１四半期連結会計期間より、従来の「クリーングループ」について「クリーンケアグループ」へ名称変更いたしました。
なお、当該変更は、名称変更のみであり、事業区分の方法に変更はありません。

２．報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

（固定資産に係る重要な減損損失）

該当事項はありません。

（のれんの金額の重要な変動）

「フードグループ」セグメントにおいて、平成24年５月に蜂屋乳業株式会社を子会社化したことに伴い、当第２四半期連結累計期間では404百万円ののれんが発生しております。

なお、のれんの当第２四半期連結累計期間の償却額及び当第２四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

（単位：百万円）

	クリーンケアグループ	フードグループ	その他	全社・消去	合計
当第２四半期連結累計期間償却額	54	20	―	―	75
当第２四半期連結会計期間末残高（注）	176	384	―	―	560

（注）当第２四半期連結会計期間末残高の主な内容は、平成24年５月に取得した蜂屋乳業株式会社ののれん残高384百万円（フードグループ）、平成20年７月に取得した株式会社アミ・コーポレーション（現在は株式会社ダスキンサーヴ東北と統合）ののれん残高46百万円（クリーンケアグループ）と当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高101百万円（クリーンケアグループ）等であります。

（重要な負ののれん発生益）

該当事項はありません。